

<第 32 回国家試験に関するアンケート> (合格者)

※ 学習の工夫点・反省点・アドバイス等について

○いつから始めたか

- ・受験勉強を本格的に始めたのが、12 月になってしまい、掘り下げて勉強ができなかったことが反省点です。
- ・7 月頃から受験対策を始めた。まずは 30 年度 31 年度の過去問、そこから不足していると思われる科目についてテキスト等で調べたりした (10 月末まで)。その後は、過去 5 年間の問題を繰り返し、12 月までに合格点～130 点くらいまでを定着させた。残り 1 か月は新しい予想問題と過去問を何度も繰り返した (特に弱い部分は時間をかけた)。
- ・10 月の受験対策講座でエンジンがかかり、11 月の模試で 70 点、12 月の模試で 80 点、本番で 91 点とステップアップできた。過去問を 3 年分 5 回解き自信になった。
- ・集中して受験対策の勉強をしたのは、仕事をしながらの 1 週間だけだった。
- ・試験対策は 7 月から開始し、一日 2 時間～3 時間行ってきた。自分に適した試験対策はどのようなものなのか早く知ることが大切だと思う。
- ・レポート提出に追われてしまい、本格的に試験勉強を始めた時期が、かなり遅くなってしまったのが反省点。結果、1 点しか取れなかった科目が 2 つあった。少しずつでも毎日勉強することが必要だと感じた。
- ・5 月頃より、過去問は必ず毎日少しでも解くようにしていた。
- ・9 月くらいから行っていた。
- ・レポートに追われて、試験への取り組みが遅かった。
- ・勉強への取り組み開始が遅かった (実質 11 月以降) のは反省点。
- ・早期のうちに 19 科目の内容に目を通しておく。
- ・とにかく早く勉強を始めたらよかったと反省した。自分なりの勉強方法を見つけることに時間がかかった。毎日少しずつでも勉強したことが良かったのだと思う。
- ・本腰を入れたのは秋から。
- ・試験勉強をはじめることができたのは 2019 年 8 月から。
- ・受験勉強を始めたのが、12 月からと遅く、もう少し早く始めれば良かった。
- ・7 月に 5 学期レポート提出、2 年目のスクーリングがあったので、本格的に受験対策の勉強を始めたのは、8 月からだった。7 月のレポート提出後、8 月からの受験対策に向けて、学習計画の立案をした。この期間に、参考書や過去問題集等を書店にて、何回も自分に合うかどうかをチェックした。また、各種受験対策となる情報を収集した。受験対策の勉強期間は、8 月～1 月までの 6 か月間。その 6 か月間を 8～9 月、10 月～11 月、12 月～1 月、と 2 か月を 1 タームとした。年末の 12 月に、合格レベルまでに持っていくこととし、2 月の本番では、100 点獲得を目標とした。

○受験対策講座、模擬試験 等

- ・受験対策講座の受講により、学習のポイントや受験テクニックを学んだ。模擬試験の受験により、苦手科目の確認や学習の進捗、習得状況の把握が出来た。
- ・時事問題について対策していなかったもので、もう少し情報を入れておけば良かったと反省している。世知門の選択肢の意味が一読してもわからないところがあったので、問題形式に早く取り組んでおけばよかつ

たかとも思った。

- ・受験対策講座で、国家試験前に全体をおさらいできて良かった。試験当日も講座での資料を持参した。
- ・受験対策講座で聞いた、模擬問題をするように言われた言葉を信じ、それだけを一週間集中して行い、間違えたところを教科書で復習するという勉強により、合格した。受験対策講座は受験内容に特化しており、大変役に立った。受講したことで合格できたと思う。
- ・基本的な必須問題を確認する上では、一定の効果があつたが、本番に向けた受験対策としては、全国模擬試験で応用力と時間配分を身につけておく必要がある。読解力とスピードが大事である。
- ・模擬試験は一度は受けるべきだと思う。試験、試験問題、解説、全てが有意義だった。
- ・受験対策講座でもらったそれぞれの教科の各冊子は、重要な箇所がコンパクトにまとめられており、対策をどの様に進めているのか迷っていた自分にとって、道しるべ的なものとなり、非常に助かった。他の学生との交流の場となり、周りの人たちがどのような対策をしているのか情報が得られ、試験対策の参考になった。
- ・受験対策講座に参加したことで、受験に対する心構えが出来た。
- ・模擬試験は自宅ではなく会場で受けた。試験会場の雰囲気と時間配分を知るため、絶対に会場で受けた方が良かったと感じた。
- ・模試受験、実力アップ講座（中央法規）を受講。
- ・講座三つと模試を一回受けた。
- ・自分の苦手教科をはっきりと知るきっかけになった。成年後見と高齢分野がさっぱりわからないと思い、年末にかけて自分でじっくりと向き合った。
- ・受験対策講座としては、社会福祉士会の勉強会、養成所の対策講座に参加。模擬試験は、テコム、中央法規、日総研の3社の模試を受講。参考書は、RB、合格教科書、過去問はQB、赤マル福祉を使用。
- ・模擬試験は、必ず受けた方が良い。特に時間配分、問題を解くペース配分は体験し、練習した方が良い。ゆっくり解いていると圧倒的に時間が足りない。

○学習方法について

- ・カフェなどを利用した
- ・ひたすら過去問をしたり、わからない所は復習した。12月後半からは、休みの時は図書館に行き、勉強に集中できるようにした(家での勉強はすぐに寝てしまったり、違う刺激の方に行ってしまう、ダメだった)
- ・たくさんの過去問を解いて、各ジャンルの特徴や文章に慣れておけば良かった。ひたすら問題を解き、感覚を掴むことは、試験当日に落ち着いて回答にとりくめる一つの方法と感じた。
- ・仕事をしながらだったので、短い時間でも毎日何かやるようにしていた。夏のスクーリングで職員の方に「お金をかけてください」と言われ、なるべく講習会などに参加するよう心がけてみた。
- ・何度もレポートで苦勞し、モチベーションが下がったりしたが、早め早めに進めていたので、期日には提出できた。国家試験勉強は9月から始め、「社会福祉士合格教科書飯塚慶子著」を始め、11月末までに1巡させ、12月初旬の模試を受けた。結果は83点。このままでは、不合格になるとそこからは必死で過去問と模擬問題を解き、2巡して、国家試験に挑んだ。結果は模試より20点アップで合格でき、努力の成果が出て良かった。
- ・出題範囲が広く、各分野ごとの問題パターンを自分流に構築することが難しい試験だった。学習上の工夫として、過去問だけでなく、ワークブック（中央法規）を反復して読み込んだことが大変役に立った。
- ・福祉の資格のための本格的な勉強が初めてだったので、まずは歴史や社会保障、国内外の動向のデータを

横並びにしながら、年表の作成を行い、時系列に出来事をまとめ、全体的な流れを理解した。個々に項目の学習をするよりも、制度や法律が作られていく過程がスムーズに理解でき、その後の個々の項目を学習が促進されたように思う。今までは知的障害の一部分の知識しかなかったが、児童や高齢などの分野の類似点や違いが見えてくると、整理もしやすく、制度の中身や背景の理解にも結び付いたように思う。

- ・過去問を7回やった。繰り返して勉強することが必要。わからない専門用語は必ず調べた。
- ・過去問(28回~31回)を繰り返し行った。ある程度できるようになって、12月~は一問一答で設問のどこが正しくどこが間違っているのかを確認し、知識の定着を行った。模試も講習会もお金はかかったが、積極的に参加した。過去問に取り組むのは早めにやっておけば良かったと思う。2019年1月頃から問題集を1週間に1回解く程度で、途中中だるみがあり、仕事も忙しく本気で取り組んだのは12月に入ってからだった。毎日、仕事終わりに2~3時間、朝5時半から30分~1時間、過去問を解き、一問一答をした。休みの日も朝~夕方までならめっこ。だんだんと間違える箇所がわかってきたので、集中して取り組むようにした。
- ・参考書はいくつも購読せず、絞ってそのテキストを徹底的にやり込む様にアドバイスをもらったが、勉強方法が身についておらず、確立されていないので、少し読んでは「ダメだ、自分に合わない」と思い、他の物に手を出すということが続いた。勉強のやり方が自分の中で確立できると習得もスムーズに進んだ。
- ・過去問、模擬問題を繰り返す。参考書を買すぎない。
- ・参考書と穴埋めチェック式の問題集を科目ごとに取り組み、学びやすかった。その後で、過去問に取り組んだところ、効率良く感じた。
- ・過去問中心で勉強して来た。
- ・過去問、予想問題。
- ・過去問3年分とももらった東京アカデミーの問題集をしっかりと独学した。
- ・テキスト、ワークブックをひたすら読む、書き込む。過去問繰り返し3回、もっと最新情報を入手すれば良かった。
- ・過去問(5年分)、模擬問題(4冊、9回分)を解き、間違えた問題の設問と正答を解説を見ながら、ノートに書いていく作業を繰り返した。どれだけ問題を多く解くか、ということが大切。
- ・最終のレポート提出から、すぐに試験に向けた過去問を中心としたテスト対策に入らないと十分な時間が得られなかった。9月から過去問をやり始め、教ソ連の模擬試験を含めて、計4回分を3回(過去問3年分と模擬試験を3回)繰り返し、ポイントをノートにまとめるやり方で勉強した。
- ・毎日何かしらやる。
- ・過去問題を中心に学習したが、その他にも講習会に参加。それでも試験では聞いたことのない言葉があったため、新しい情報を入手するためにアンテナを広げることが必要と感じた。
- ・とにかく過去問を解いた(過去三年間分)。
- ・共通科目、専門科目のテキストで基礎を身につけてから、過去問に取り組むという学習方法を行い、合格することができた。非常に時間を要する地道な学習方法とわかっていたが、自分にとっては、このやり方が一番適していた。
- ・過去問題(3年分)、模擬試験(2回、中央法規と学校連盟)及び、模擬問題(3回分、中央法規)について、5回解答と見直しを行った。なお、見直しはワークブック(中央法規)を活用し、5回目の正答率は、各試験、問題ともに85%超となった。
- ・4冊、問題集を解いた。2冊は過去問、2冊は模擬試験、中央出版の模擬試験を通信添削で解いた。模擬試験6回とも55%台だった。30、31回の国家試験過去問は70%台、とにかく問題を解いた。
- ・もう少し時間をかけて勉強し、知識を身につけたかったと感じた。
- ・基礎力をつける為には、参考書やテキストを漫然と読んだり書いたりするだけでは駄目で、参考書と並行

して過去問を解くことを繰り返すことが一番大事。

・全体像を把握する（いとう総研の講座）。0点にしない科目、稼ぐ科目を決める（法律改正の少ない科目、SW等）。ひたすら模試を受ける（小さなヤマを沢山つくる）。ひたすら過去問をやる。難しい予想問題集はあまり意味ない。

・参考書は一冊にしぼり（中央法規）、何度も繰り返し学習した。

・正職員で家庭があり、年も重ねているという状況で、学生などに比べるとかなり不利だったが、少しの時間で1つのことを覚える、家事の時にイヤホンでウェブ講座を聴く、車の中でも聴く、始業前の30分を過去問、模擬問（各教科2〜3問）を解く時間に設定し、夜に答え合わせする等々、できる時間にできることをした。

・過去問を繰り返し、基礎を固めた後、模擬問で実践力を高めた。過去問だけでは足りなかったと思う。また、大変活用したのは中央法規のアプリ。空いた時間や寝る前に、すこしずつだけでも勉強できたのが良かった。

・もっと早いうちから勉強していた方が、余裕を持って試験に臨めたと思った。

・社会福祉国試ナビ2020（中央法規）のテキストが非常に参考となった。とにかく繰り返し読んで覚えた。

・隙間時間の活用（通勤時はワークブック1問1答を10問すると決めて実行した）。1日3問と決めて、過去問に取り組む。1日30分くらいでも良いので、必ず取り組んだ。過去問の繰り返し、わからない部分はテキストを読む。問題集の余白にまとめる。基本的には過去問の繰り返しだが、勉強の順番を変えたり、ウォーミングアップテストをしたり、マンネリ防止のため、勉強時には少しだけ変化を加えた。週末は朝・夕は基本勉強だが、昼は気分転換も図る等メリハリをつけた。

・自分のペースに合った学習をすることができたことが良かった。

・わからない用語やあいまいなものは、インターネットや参考書などで調べ、理解してから問題を解いたり、解説を読み込むようにした。

・仕事をしながら、勉強していたため、帰ってからはやる気がない。なので朝早く起きて、1時間ほど勉強することにしていた。

・参考書を1冊限定し、繰り返した。過去問7年分やったが、新しい傾向の問題も多かった。

・過去問.comというサイトを利用して、スマホや職場のPCなど可能な限り、過去問に取り組んだ。

・やはり、しっかり根元をおさえていないと対応できない問題が多かった。完全に頭に入れたつもりが、設問を読むとわからなくなるなど、応用力がとてもしんどいと感じた。

・隙間時間を活用した。苦手科目にかける時間が不十分であった。

・過去問を3年分解いて、大切に思う用語や表をノートにざっと書いておき、直前に何度も見直した。試験対策の動画を運転中や家事の間、聞き流した。出題予想の模擬問題を（時間帯も当日と同じに）やってみた。

・過去問（予想）を5回行い、復習し、出題傾向の高いワードを広く浅く記憶。当日は消去法を主に使用した。

・過去問→自主勉強→模試→過去問→自主勉強→一問一答。毎日1〜2時の自主勉強、土日は自習室にて集中勉強を行った。

・自分に合った学習方法を見つけること。

・5分〜10分の短い時間でも1日1回は学習をする習慣を意識して取り組んだ。

・毎日の積み重ねが大切。短時間でも、学習をすることで自分なりの納得が得られる。不得意なところは何度も繰り返すこと（わからないことは何度も調べる）。それによって理解しながら覚えらる。

・レポート作成時に、その単元の過去問を行い、ポイントはどこかを把握して、レポートの作成を行った。そのことにより、レポートを作成する段階から国家試験を意識した効率のよい学習ができたと思う。

・過去問を5年分5回、社協の学習会2日間、模試1回、社会福祉士養成所からの問題に取り組んだ。集

中してやれば、年齢に関係なく合格できるとわかった。

- ・国が推進しているようなものと法改正は要チェックした。国、都道府県、市町村で蛍光ペンの色を決めてマークしていった。視覚でわかりやすいカードを自分で作って度々見ていた。試験が近くなったらトイレにも貼り紙を貼った。時々ジョギングをしたらやる気が出た。仕事を早め早めに行った（仕事に追われないようにした）。8月には過去問をやり始めた。

- ・過去問の内容がわかるまでやること。

- ・計画的な学習を勧める。私の場合は、3ヶ月前から焦って計画したが、仕事が入ったり、子どもが病気になったりと計画通りに進まず、結果、ギリギリの合格となってしまった。

- ・過去問や模擬試験を行い、その弱点を学習。基本的にはこのスタンスで取り組み、科目の0点を取らないことを意識した。基本を確実に取ることを狙った。

- ・過去問を1題ずつ解いては、解説を読んで「なるほど」と思ったところにマーカーを引いた。2周目からは、間違えた問題に印をつけ、3周目は印をつけた問題だけをやり、試験当日朝、トイレの列に並んでいる間、昼休みもずっと印をつけたところをやっていた。50代、12月からの勉強でもこれで合格できたので、同世代の方、頑張ってください。

- ・独学で勉強している人は、講座に行き、まとめられたテキストを使うのは効果的だと思う。最終的には過去問3か年分を5回やった。講座のテキストと使った参考書は国試ナビ1冊のみ。具体的に言うと「社会福祉士学習部屋」というサイトを暇があれば見て、意識を試験に向くようにしていた。過去問は最初の一周がつかかったが、3~5周目くらいはあつという間だった。19科目という、とても多い範囲なので、まんべんなく勉強するということが非常に大事（自分は1点科目があった）国試は複雑に考える問題は無いので、今までの勉強を信じて、1度決めた選択肢は見直しの時、変えない方が良い（これで1点科目を死守）。範囲が広すぎて大変だが息抜きをしながら最後まであきらめず頑張ってください。

- ・ほとんど苦手科目に時間を割いた。すべての科目をしっかりとやることはできなかった。

- ・自分ノート作成。問題集を絞り、繰り返し復習した。

- ・仕事に行く前の朝、7時からの1時間をコーヒーショップでの勉強に充てていた、試験直前は朝勉強に加えて、勤務後にカフェに寄り、2時間程の勉強時間を確保した。色々な問題集を使い、苦手な分野は少し時間をかけて自分のノートにまとめたり、総合的に覚えることができるようにしていた。その中では、国試ナビと中央法規の問一答アプリを良く使った。問一答アプリは電車で10分でも40~50問進められるので、達成感があって良かった。

- ・仕事との両立が難しく、時間が確保できなかったのも、応用的な問題は切り捨て、ひたすら基礎のテキストを精読した。養成所メーリングリストに出ていた問題は参考になった。2~3点はこれで取れた。

- ・ワーク、過去問等で勉強を進めたが、基本事項の暗記ができていないと感じ、ひたすら問一答を繰り返し解き、ノートに書きまくった。

- ・過去問を繰り返して、自分で解説できるまで、理解を深めた。

- ・過去問3年分を丁寧に勉強した。12月に中央法規の全国模試を受験したことも、弱点がわかり、役に立った。

- ・仕事と子育てで時間が無かったので、国試ナビ(中古で古いもの)を2冊買い、家の壁中に貼って覚えた。ソ協連のYouTube動画を通勤時に何周も聞き、休日はテキストにマーカーを引いて覚えた。最後の一か月は過去問問一答をひたすらやった。

- ・8月~9月の狙いは、まず、科目全体の概略を把握すること、過去問3年分(450問)を1回まわすことを目標とした。科目ごとの全体感を把握するために、社会福祉士会主催の勉強会に参加した。この勉強会は、毎週日曜日に5回開催され、1科目80分の講義だった。この講義をベースに、過去問集を1回まわした。過去問集は、科目別に編集されているものを使用した。この過去問集とセットで購入した参考書は、パラパ

ラと眺める感じだった。過去問はすぐ答えを見ずに、わからないなりに一応考えて解いた。この時期は、どういう問われ方をするのか、どういう知識が必要なのかを洗い出すことを目的とし、第2タームでその課題をクリアしていくこととした。勉強時間は、仕事が終わってから、自宅近くの図書館で、1時間ほど勉強した。土日や、帰宅後の自宅では、ほとんど勉強していなかった。なので、2か月かかって過去問を解いた。比較的のんびり、気分的にも余裕があった。10月～11月は、10月の頭に、2か月の勉強の成果を図るべく、残しておいた31回の国試の過去問を模試代わりに解いてみた。結果は75点だった。この知識で受験していたら、不合格だということを認識した。第2期は、第1期で明らかにしたあやふやな知識を確実なものにすることを目標にし、参考書を通読し、過去問3年分の2回目を行った。が、なかなか、勉強ははかどらず、あいまいな知識も確実な知識にすることができない状況が続いた。養成所の受験対策講座にも参加したが、どうしたらいいかわからないまま、時間が過ぎていく感じだった。11月の頭に、テコムの模擬試験を受けたが、78点だった。3か月の勉強で、進歩していない現実とあと残り3か月で合格レベルに到達できるのかという焦りを感じ始めた。この時期の勉強時間も、平日1時間ほどだった。知識を確実なものにしていく作業は、時間がかかり、遅々として進まない現状にいらだちを感じ、やる気が失せていた。知識を確実なものにするための方法を手探りしていたので、再度、情報を収集しなおし、残り2か月の勉強方法を考えた。12月の頭に受けた中央法規の模擬試験は、85点だった。第2期での受験勉強がスランプだったので、この2か月で、合格レベルとなるよう基本的な知識を定着することに改めて取り組んだ。11月の終わりに、新たにwebで過去問を行うツールに申し込み、また、1問1答のアプリを購入、信頼のおけるブログを見つけ、そのブログで述べられている問題への取り組み方等を参考に、過去問に取り組んだ。過去問は、webで過去問を解くツールを使用して過去7年分をとにかく解きまくり、わからないところは、参考書の立ち返り確認するということを繰り返し何回も行った。

1月の頭に、日総研の模試を受け、103点を取ることができた。ある程度、知識が定着してきたのかなと実感したが、まだまだ手付かずの箇所がたくさん残っていた。1日1日と残り少なくなっていくにつれ、やらなければならない項目、覚えなければならない項目が山ほどあり、結構焦りながらも、愚直に過去問を解き、参考書にて確認を繰り返した。過去問を解きながら、キーワードをノートに書き、それを説明できるように参考書で確認し、あとで自分なりに説明できるかを全科目できるように繰り返した。ようやく、この時期に来て、勉強のやり方が身について来たかなと感じる。勉強時間は、平日は2時間、土日は5～6時間勉強した。通勤時にアプリで1問1答を行っている。

・仕事と家事（介護）が忙しく、まとまった勉強時間が取りにくかったので、テキストやレポート作成に加え、YouTubeでの関連動画を開いていた。

○養成所について

- ・特にメールマガジンでは、その時々¹の社会情勢をからめながら、模擬問題を載せて下さっていたため、タイムリーな社会の話題と福祉をリンクして考えることができ、ためになった。
- ・ウォーミングアップテストや頻出項目チェックテストの内容を理解していれば、合格に手が届くものと思う。多科目、広範囲に学習をしなければならないという意識の中で、抑えるべき基本の部分が示されていたと感じた。
- ・ウォーミングアップテスト、チェックテストは要点がまとまっていて、科目の概要をつかむのに役立った。メルマガも定期的に振り返ると情報がたくさんで学習継続の刺激になって良かった。
- ・ポイントのチェックをする（語句を調べる）等に役立った。
- ・テストはとても役立った。何度も繰り返し利用した。わかりやすく使いやすかった。
- ・メルマガは必ずチェックしていた。問題も初めは間違っ²てばかりだったが、試験前は正解を選択できるよ

うになっていて嬉しかった。メッセージも励みになった。

・ウォーミングアップテストは、用語のまとめ、単語カードにして暗記し、役に立った。受験対策講座も試験に対する情報収集もでき、プリントのテキストは追記して1冊のファイルにし、最後まで活用させてもらった。試験直前のメルマガはとても勇気づけられ、ありがたかった。

・ウォーミングアップテストはわかりやすい。受験にあたっての心構えなど、気持ちを継続することに役に立った。

・正直、もらったテストは全く解けなかった。自信をなくして不安になったが、メルマガは楽しみに読んでいた。

・メールでの問題、解析、ウォーミングアップテスト等、活用させてもらった。受験対策講座は、申し込みが少し遅かったこともあり、受講出来なかった。参加人数のキャパシティをもう少し増やして欲しい。

・メルマガは軽い息抜きと共に、最新の動向も知ることができ、タイムリーで良かった。

・東京アカデミーの問題集は良かった。

・テスト近くには、メルマガに大変励まされた。ウォーミングアップテストができるようになると自信につながった。

・メルマガは役に立った。しかし何より、実習指導、スクーリングが良かった。基本的なソーシャルワーカーの姿勢が学べた。

・受験対策講座を受けたいが、遠方の為困難だった。メルマガは定期的に来たので助かる。問題数がもう少し多ければ嬉しい。

・メルマガは試験前のモチベーション維持に役立った。

・過去問題や模擬試験問題に取り組む前に、ウォーミングアップテスト、講座、教材等を繰り返し熟読したことにより、基礎的な知識の向上につながったと考える。

・スクーリングでの出会いに感謝している。メルマガも届き、過去問ももらえ、要点まとめもあり、助かった。

・メルマガは温かみのある感じがして、内容も濃く、楽しみにしていた。良かった。

・ウォーミングアップテスト、頻出項目テストを繰り返し行った。

・メルマガは社会福祉士としての資質の向上（幅の広い視点や洞察）に役立つと思った。

・ウォーミングアップテストを試験直前に利用し、力試しとなった。

・試験が近くなると、メルマガの情報が心強く、届くのが楽しみだった。身近に同じ立場の人がおらず、相談や励まし合いも難しかったが、養成所からのあたたかい応援とアドバイスがあり、助けられた。

・メルマガは、問いだけでなく、コラムもあり、勉強への励みになった。

・自分で購入した問題集の他に、ウォーミングアップテスト等を活用することで試験までの実力の向上につながったと思う。

・チェックテストが最終の追い込みに役立った。

・ウォーミングアップテスト、頻出項目チェックテストを活用することで、ポイントを知ることができた。メルマガを読むことで励まされた。ソーシャルワーク関連年表を活用することで、全体の流れを理解することができた。

・知識の習得に役立った。

・メルマガのコラムが楽しかった。毎週楽しみにしていた。

・ウォーミングアップテストと受験対策講座はためになり、繰り返しやった。最後までやり抜けた。

・学校では、手続き、書類全部そろえて送ってくれた。受験申込もおかげで気が付き、手続き申請することができ、ずぼらでも無事だった。

・メルマガの過去問は知識の向上に役立った。

・何も頭に入っていない状況から、何となく打ち込んで言葉に慣れていき、だんだんと頭に入って定着していった過程を身を持って感じたから大変良かった。

・ウォーミングアップテストに全くノーマークのユダヤ人の名前が出ており、1点取れた。

・「養成所ニュースプラス」を毎回活用させてもらった。移動中でもミニ講座で学習できるので便利だった。実習指導の中で、養成所修了生による実習の体験談や国試対策の話が聞けると有難かった（カリキュラム上難しいとは思うが）

・出題される傾向の高いワード、人物の一覧があると良かった（年表良かった）。関連ワードの知識量が増えることで、消去法がやりやすくなる。予想問題をオリジナルに3回分ほどあると多分合格する。

・受験対策講座を大阪でも行って欲しい。メルマガは情報を得られて良かった。

・とても役に立った。

・メルマガのコラムは参考になった。紹介していた書籍も実際に購入し、知識の幅が広がった。

・過去の情報は多くあり、満足できたが、時事問題や最近の動向等の情報がもう少しあると良かった。

・テスト類は全部活用させてもらった。

・受験対策講座を大阪でも開催していただければと思った。頻出項目チェックテストは右端を折るとちょうど答えが隠れて持ち歩いて勉強できた。

・メルマガは時間の合間にチェックでき、活用していた。

・テストより、まず基本を学べる教材の方が良い。19科目あるとどこから手を付けていいかわからないので、とっかかりのようなものがあると良い。

・スクーリングがとても良かった。蔵野先生、八谷先生、お二人ともわかりやすく楽しい時間だった。そして共に学ぶ仲間と2回目も一緒だったので、共にはげまし合い、レポートも遅れながらも提出できた。受験講座も台風等で日程変更があったにもかかわらず、先生方に教えて頂き、確実に点数アップにつながったと思う。

・メルマガは参考になった。読む度に「勉強しなければ」と緊張感を持てた。一方、ずっとレポートに追われ、ウォーミングアップテストも頻出項目チェックテストも、目を通すこともできなかった。できれば、限られた時間の中で効率よく学習するために、全科目の基礎を学べる入門書的なテキストを導入して欲しい。中央法規のテキストを全巻を通読して学習することは、働きながらでは現実には不可能だと思った。レポート学習の効率が上がれば、もっと早くから試験準備ができるのでは。

・試験直前の講座は、とても良かったが（10月）、予想問題集を10~12月くらいに配布して欲しいと思った。

・ウォーミングアップテストはレポート提出とは並行してできなかったが、昨年7月のレポートを全て出し終えたあと、試験勉強を本格化させる前に、取り組んで復習していた。頻出項目チェックテストは、1月に力試しも兼ねて取り組んだ。不確かな部分が見えて来て良かった。メルマガは週1というペースがとても良かった。勉強しなきゃという意識づけになった。

・メルマガが大変役に立った。業務の合間に読んで、知識を得ることが出来た。試験の際にもメルマガで読んだというのがいくつかあり（コルチャック先生とか）得点源となった。

・頻出項目チェックテストは、コンパクトにまとまっていて良かった。移動時や受験当日活用した。メルマガは楽しく読ませてもらった。そして勉強にもなった。

・毎週金曜日に配信される養成所ニュースにすごく励まされた。記事の内容もタイムリーでとても良かった。

・試験対策は、他の養成所と比較して、合格サポート力は弱いと感じた。今後の受験対策について、提案があるので別紙、ご参照ください。

・ウォーミングアップテストは各学期ごとに用意されていたが、私の場合、レポート提出に追われ、ほとん

ど手つかずだった。レポート作成期間は、なかなか国試受験の意識とならないと思う。ただ、少しでも早くから、国試に向けての受験勉強が大事であるという意識付けがあるところといったウォーミングアップテスト等は有効であり、しっかり取り組むことができたと思う。1年目のスクーリング時に、国試の受験勉強についてレクチャーした方が良い。頻出項目チェックテストのおかげで、コルチャックの問題を正答することができた。チェックテストは、模擬試験の前や国試受験の直前に最終確認として活用した。左ページに要点がまとめられており、右ページで1問1答となっているのが良かった。受験対策講座は開催時期も含めて、内容を検討した方が良い。メルマガは金曜を楽しみにしていた。受験勉強の意識づけや心構えにもなるので、可能であれば、9月からではなく、1年目の開講時から、毎週発信してもらえるといい。

- ・スクーリング時の受験対策講座、資料は良かった。時間が少なかったので、メールマガジンでも、もう少し詳細な対策があっても良かった。

○当日のこと

- ・21点配点の相談援助の理論と方法は、2回の模試で18点取れ、得意と思い、力を入れないでいたため、13点と失敗してしまった。他の科目が全体的にアップしていたため、助かった。

- ・最後は自分自身との戦い、と体調だけ崩さないように取り組んだ（初めてインフルエンザの予防接種を受けた）。大学受験より頑張った気がする。

- ・午前の共通科目が難しく感じて、昼休憩中に落ち込んだが、午後の専門で満点目指せばいい！と気持ちを切り替えた。難しく感じた要因は“自分が出来なかった問題ばかり気にしてしまった”からだと思う。全部が出来ていないように錯覚してしまった。それも試験本番ならではのことで、今なら思うことが出来るが、当日は生きた心地がしなかった。養成所のレポートを書くときに学んだことが試験に出て嬉しかった。問題39（地域力強化検討会最終取りまとめ）は、地域福祉のレポートを書くときに厚労省の文書と長時間にらめっこしていたので、SIBを見たときに、「これだ！」と分かった。また、問題93のシュワルツも相談援助演習のグループワークのレポートで学んでいたもので、解答できた。試験対策としての学習も大事だが、今までの積み重ねが最後には味方してくれるように思う。

- ・試験は、96点だった。試験後の手ごたえはあまりなく、できたようなできなかったような感じだった。やり残したところはたくさんあった。12月くらいから、軌道に乗り始めた学習方法をもっと早くから取り組められたら良かった。

- ・頻出項目チェックテストと詳細な解説のテキストが良かった。引き続き、使わせてもらう。今後の業務での知識やヒントとして。